

学習指導要領の趣旨を実現する授業づくりのポイント

授業の質を高めるために

小学校【国語】

国語科における言語活動の充実

実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本となる国語の能力を育むために

- 各単元で重点的に指導する事項を明らかにする。
- 児童の実態に応じて、重点化した指導事項（能力）が確実に身に付く言語活動を選定する。

指導に生きる評価の実践

単元の学習を通して、重点的に取り上げた指導事項（能力）が身に付いていることを児童に実感させるために

- 例えば「読むこと」の学習で、教科書教材と児童自身が選んだ本や文章などを用いて同一単元内に類似した活動を複数回位置付けるなど、指導方法を工夫する。
- 授業改善のための評価については、例えば、座席表等を利用して「おおむね満足できる」状況に達しているかどうかを絞って個々の実現状況を見るなど、簡素で効率的な評価を実施する。
- 「おおむね満足できる」状況に達していない児童への手立てを工夫する。

小学校【社会】

問題解決的な学習の充実

問題解決的な学習を充実するために

- 「Aスーパーを調べよう」ではなく、「Aスーパーのうりかたのくふうを調べよう」のように、解決する問題が明らかで到達する答えがある学習問題か、さらに、その学習問題を追究すれば、学習のねらいを達成できるかを吟味し設定する。
- 問題解決的な学習を指導計画に位置付け、計画的に取り組む。
(主体的に学ぶ態度の育成には、生徒に学習の見通しをもたせ、学習計画を立てさせることが効果的である。)
- 調べる目的や内容、どのような情報をどこから集めるのかといった方法について意識させ、観察や資料活用の技能を育成する。

言語活動の充実

社会科における言語活動を充実するために

- 観察・調査したり、資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録したりする学習や、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習を取り入れる。
- 考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく学習を計画的に実施する。

小学校【算数】

数学的な考え方の育成

授業を通して、ねらいとする数学的な考え方を育てるために

- 問題解決的な学習過程を重視し、自力解決はもちろんのこと、小集団学習での話し合いの視点を明確にすることにより、互いに考えを広げ発展する場を設定する。
- 評価規準や評価方法を具体的に設定して計画的に評価し、ある程度の長いスパンで個々の変容を見取り、個に応じた指導に生かす。

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図るために

- 使う用語・記号や公式を丸暗記させるのではなく、観察、操作や実験などにより、その概念や意味を、実感を伴って理解できるようにする。
- 全国学力・学習状況調査や県学力診断調査などを基に、課題（例 「乗法や除法の意味」「割合」など）を明確にし、授業改善に取り組む。

指導内容の系統性や関連性を意識した指導

習得した知識や技能の確かな定着を図り、それらを主体的に活用する力を育てるために

- 小中学校の指導内容の系統性を十分に理解し、指導内容をなだらかに発展させたり、学び直しの機会を設けたりする。
- 単元末などで、他の単元や領域等の指導内容と関連付けて、課題解決したり判断したりする場を設定する。

小学校【理科】

問題を見だし、設定する力の育成

問題を設定する力を育成するために

- 自然に親しみ、素朴な概念や疑問をもたせるよう体験活動などを重視する。
- 素朴な概念や疑問から、教師の適切な働き掛けによって、仮説を立てたり結論付けたりすることができる問題を設定する。

科学的に探究する学習活動の充実

習得した知識や技能を活用し、科学的な思考力や表現力を育成するために

- 個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、自然の事物・現象について実感を伴った理解ができるような活動を重視する。
- 問題解決学習に体験活動や言語活動を意図的に取り入れるなど、学習のプロセスを大事にする。
- 実社会・実生活との関連を重視し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める。

小学校【生活】

気付きの質を高める学習指導

充実した活動や体験から生まれる気付きを質的に高めるために

- 活動や体験したことを言葉、絵、動作、劇化などの方法により、振り返り表現する機会を設ける。
- 気付きを確かめ合ったり共有したり、自分にはないものを相手から学び取ったりできるように、伝え合い交流する場を工夫する。
- 対象に繰り返し関わる場を保障し、試行錯誤したり、納得いくまで追究したりすることができるようにする。
- 児童一人一人の活動への思いや願い、対象への関わり方の多様性を認める。

目標・指導・評価の一体化

活動の中に学びが生まれ、充実した学習活動となるために

- 「何を学ばせ、どんな力を付けさせるか」ねらいや評価規準を明確に位置付ける。
- 児童の姿や表情の「観察」、見ただけでは分からない児童の思いや工夫に関する「問い掛け」、ワークシートや作品などに込められている児童の思いや気付きの「読み取り」など、多様な方法で評価する。
- 教師が評価したことを児童に返し、次の活動につながる新たな課題意識を引き出すようにする。

小学校【音楽】

音楽の特性を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成

思考力・判断力・表現力を育み、「分かった、できた」と実感できる授業をつくるために

- 表現領域では、音楽的な感受を基に、必要な技能を身に付け、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて、一人一人が思いや意図をもつ過程を大切にする。
- 鑑賞領域では、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にする。また、音楽を聴いて、「音楽を形づくっている要素」「自分が感じ取ったこと」「自分の判断」の三つを基に、言葉で表したり批評したりする活動を充実させる。

目標・指導・評価の一体化

年間指導計画と、題材ごとの指導計画の整合性、一貫性を確かなものにするために

- 育てたい力を明確にする。
- ①題材の目標、②指導事項と〔共通事項〕、③指導内容、④教材、⑤評価規準と評価方法、⑥学習活動の展開と評価の位置付けにズレやブレがないか見直しを行う。
- 「ただ楽しい授業」でなく、「真に楽しい音楽の授業」となるよう、子どもたちの具体的な姿を想定して指導計画を立て、一人一人をしっかりと見取って評価する。

小学校【図画工作】

創造的な学習活動の展開

自らつくり出す喜びや表現する楽しさを味わう創造的な学習活動を展開するために

- 場や材料における工夫など、学習への関心や意欲を高める指導を授業に位置付ける。
- 「木の枝をつないだり並べたりしながら、造形的な活動を思い付いている」など、具体的な評価規準を設定して、その時間の目標を児童に分かりやすく示すとともに、評価したことを児童に返し、指導に生かすようにする。

目標・指導・評価の一体化

目標・指導・評価の一体化を図るために

- 年間指導計画と共に、題材ごとに評価計画を立て、活用する。
- 話し合い活動を取り入れるなど、意欲をもたせる手立てを考え、そこに現れる児童の姿を、評価規準に基づいて記録に残す。

小学校【体育】

体づくり運動の一層の充実

体づくり運動の一層の充実を図るために

- 自分の体や心の変化への気付きを促すように、発達の段階に応じて体ほぐしの運動の行い方や言葉掛けを工夫する。
- 多様な動きをつくる運動（遊び）では、意図的に動きを身に付けさせることをねらいとした運動（遊び）に楽しく取り組めるよう指導方法等を工夫する。
- 体力を高める運動では、体力の必要性を実感し、自分に合った運動を工夫して行えるよう指導する。
- 児童や学校の実態を踏まえながら、ある程度のまとまった時間を指導計画に位置付け、学習内容の定着を図るとともに、学習したことを家庭などで生かすことができるよう指導の在り方を改善する。

体育学習の充実

体育学習において、知識を基盤とした技能や規範的態度、思考力・判断力を発達の段階に応じてバランスよく育むために

- 動きのポイントやこつがイメージできるような言葉掛けを工夫する。
- 運動の楽しさや喜びに触れることができる運動の行い方や場の工夫をする。
- 振り返りや思考の共有ができる話し合い活動の場面を意図的に設定する。

小学校【家庭】

基礎的・基本的な知識及び技能の定着

知識や技能を活用して、生活をよりよくしようとする態度を育てるために

- 授業や題材の中で身に付けさせることは何かを明確にする。(同じ内容を扱っていても、5年生と6年生とでは、ねらいが異なる。)
- 実践的・体験的な活動を効果的に取り入れた題材の指導計画を作成する。
- ICTを活用するなど、分かりやすい教材や指導方法を工夫する。

実践的な態度の育成

生活を創意工夫する能力、やろうとする意欲を育むために

- 評価カードを工夫するなど、自分の成長を実感できるようにする。
- 授業や題材の中に、問題解決的な学習を意図的・計画的に位置付ける。
- 生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や課題解決の方法を考えたり説明したりするなどの言語活動を充実する。

小学校【外国語活動】

コミュニケーション活動の充実

コミュニケーションを図ることの楽しさを味わい、積極的に人と関わろうとする意欲を育てるために

- 相手の発する言葉に耳を傾け、相手のことを理解しようとする活動を取り入れる。
- 日頃の児童との関わりの中で把握した児童の「伝えたいこと、聞きたいこと」や、他教科等での学習と関連付けた情報などを用いて、コミュニケーション活動を仕組む。

ねらいを明確にした指導計画と評価の工夫

コミュニケーション能力の素地を養うために

- 育てたい児童像を明確にし、ねらいを達成するための活動を吟味する。
- 学級担任がコミュニケーションのモデルとなるとともに、児童のコミュニケーションの取組について、ねらいに即したフィードバックを行う。
- 振り返りカード等では、ねらいに沿って、児童ができるようになったことや、気付いたことを具体的に把握できるよう項目を工夫する。

小学校【総合的な学習の時間】

探究の過程における体験活動の充実

体験活動を充実するために

- 比べて考えるような体験活動を位置付けることにより、児童に「どこがどう違うか」「どうして違うか」などの問題に気付かせ、課題の設定につなぐ。
- 地域の伝統芸能に携わる人などとの出会いから、児童が対象のよさや価値を実感してあこがれを抱く体験を大切にし、課題意識を高める。
- 探究的な調査が可能な対象を選び、体験活動によって情報を収集する場をつくる。
- 体験活動で得た音やにおいなどの感覚的な情報を作文などで言語化し、蓄積することで、探究活動に生かす。

妥当性・信頼性のある評価の実施

児童にどのような資質や能力及び態度が育まれているのか、児童は何を学び取っているのかを児童の学習状況から丁寧に見取り、評価するために

- 学習活動と評価規準に整合性をもたせる。
- よりよく問題を解決する資質や能力、主体的・創造的・協同的に取り組む態度など、児童の多様な姿を幅広く評価する。
- 自己評価や相互評価の状況を記した評価カード、レポートや作文など、多様な評価方法を取り入れる。
- 評価の回数を観点ごとに偏りなく確保するように評価計画を立てる。

小学校【道徳】

道徳の時間の特徴を踏まえた指導の充実

道徳の時間の特徴を踏まえ、児童一人一人が道徳的実践力を身に付けるための指導を充実するために

- 児童一人一人が自己を見つめる発問を工夫する。
- 補充、深化、統合の役割を意識した指導過程を工夫する。
- 先人の伝記や文化、スポーツなどを題材とした、魅力的な教材の開発や活用を促進し、児童が感動を覚えるような授業を工夫する。

温かい人間関係の構築

学級での温かい人間関係を基盤にした道徳の時間の指導を行うために

- 児童の成長を見守り、児童の道徳性を共感的に理解する。
- 支持的風土のある学級経営に努める。
- 児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合う姿勢をもつ。

小学校【特別活動】

話し合い活動の充実

児童全員が主体的に参加できる話し合い活動を実践するために

- 議題ポスト等を活用し、児童にとって切実感のある学級会の議題を設定する。
- 意見を分類・整理し、比べる視点を分かりやすくまとめるなど、話し合うための板書を工夫する。
- 集団決定したことの重みを感じられるようにし、決定したことを尊重しながら行動できるよう責任をもたせる。

活動意欲を高める評価

児童の活動意欲を喚起する評価を行うために

- 活動の中で目指す児童の姿や評価方法を明確にし、評価シートなどを活用して効果的に評価できるようにする。
- 活動の過程における児童の努力や意欲等を積極的に認め、児童が自信をもって次の活動に取り組めるようにする。